

新型コロナウイルスの懸念される変異株（VOC）

参考資料1

6月2日開催アドバイザーボード資料

PANGO系統 (WHOラベル)	最初の 検出	主な 変異	感染性 (従来株比)	重篤度 (従来株比)	再感染やワクチン 効果（従来株比）
B.1.1.7系統の変異株 (アルファ株)	2020年9月 英国	N501Y	1.32倍と推定※ (5～7割程度 高い可能性)	1.4倍（40-64歳 1.66倍）と推定※ (入院・死亡リスクが 高い可能性)	効果に影響がある 証拠なし
B.1.351 系統の変異株 (ベータ株)	2020年5月 南アフリカ	N501Y E484K	5割程度高い 可能性	入院時死亡リスク が高い可能性	効果を弱める 可能性
P.1系統の変異株 (ガンマ株)	2020年11月 ブラジル	N501Y E484K	1.4-2.2倍高い 可能性	重篤度に影響がある 証拠なし	効果を弱める可能性 従来株感染者の再感染 事例の報告あり
P.3系統の変異株 (シータ株)	2021年1月 フィリピン	N501Y E484K	高い可能性	重篤度に影響がある 証拠なし	効果を弱める可能性
B.1.617系統の 変異株 (デルタ株等)	2020年10月 インド	L452R (E484Q)	高い可能性	重篤度に影響 がある証拠なし	ワクチンと抗体医薬の 効果を弱める可能性

※感染性・重篤度は、国立感染症研究所等による日本国内症例の疫学的分析結果に基づくもの。ただし、重篤度について、本結果のみから変異株の重症度について結論づけることは困難。
※変異株の括弧内の系統名は、新型コロナウイルスに関して用いられている分類方法であるPangolinによる分子系統 IDによる分類系統名。

(出典)国立感染症研究所、WHO

新型コロナウイルスの注目すべき変異株（VOI）

	最初の検出	主な変異	概要
R.1系統の変異株 (E484Kがある変異株)	-	E484K	<ul style="list-style-type: none">国内で海外から移入したとみられるが起源不明感染性に影響を与える可能性がある変異は認められない現在日本で使用されているワクチンの効果を完全に無効化するものとは考えにくい引き続き、ゲノムサーベイランスを通じて実態を把握
B.1.427/B.1.429系統の変異株 (イプシロン株)	2020年5月 米国	L452R	<ul style="list-style-type: none">2割程度の感染性の増加と治療薬（抗体医薬）の効果への影響が示唆されている引き続き、ゲノムサーベイランスを通じて実態を把握

(参考) 感染症発生動向調査 (IDWR) (国立感染症研究所 5/28公表)

- ◆国内におけるSARS-CoV-2のゲノム解析 累積:41,698 (5/23時点) (+2,525) 括弧内は5/16時点比
- ◆国立感染症研究所等における全ゲノム解析により確認されたVOC, VOI (系統のみを特定できたものも含む) (5/24時点) 括弧内は5/17時点比
 - B.1.1.7系統の変異株 (アルファ株) :国内11,235例 (+2,509例)、検疫291例 (+0例)
 - B.1.351系統の変異株 (ベータ株) :国内26例 (+2例)、検疫70例 (+4例)
 - P.1系統の変異株 (ガンマ株) :国内87例 (+9例)、検疫20例 (+0例)
 - P.3系統の変異株 (シータ株) :国内0例、検疫7例 (+1例)
 - B.1.617系統の変異株(デルタ株等) :国内45例 (+34例)、検疫190例 (+30例)
 - R.1系統の変異株(E484Kがある変異株) :国内5,764例 (+511例)、検疫5例 (+0例)
 - B.1.427/B.1.429系統の変異株 (イプシロン株) :国内2例 (+0例)、検疫25例 (+0例)

※変異株の括弧内の系統名は、新型コロナウイルスに関して用いられている分類方法であるPangolinによる分子系統 IDによる分類系統名。
(出典) 国立感染症研究所、WHO